

図書波だより

第 46 号

平成 8 年 9 月 30 日
愛媛大学附属図書館

目 次

メディアの行方……………	1 ~ 2	相互利用の手続きを簡素化……………	7
私のすすめる一冊⑦……………	3	購入雑誌リストについて……………	8
全国共同利用図書資料の紹介……………	4 ~ 5	愛媛大学記念文庫……………	8
学外への文献複写申込書について……………	6	附属図書館委員会……………	8
学術情報検索システムの本運用の 実施について……………	7	図書館日誌(会議, 研修)……………	8

メディアの行方

濟 賀 宣 昭

メディアの世紀

今年近代オリンピック史上記念すべき百年目ということで、7月19日の開会セレモニーはテレビというメディアを介して世界中の人々が見守る一大スペクタクルと化した。今日のこのようなメガメディアも約百年前近代オリンピックが開始された19世紀末から20世紀初頭にかけての電気通信革命に端を発している。振り返れば20世紀はメディアの世紀であった。これを前半の第1のメディア、後半の第2のメディアに分け、更に来世紀に実現するであろう第3のメディアに想いを馳せてみたい。

第1のメディア

対面会話には基本的にメディアは不要であるが、時間と空間を間に置いた情報交換には媒体としてのメディアの存在が不可欠である。15世紀半ばのJ. グーテンベルクによる活版印刷技術の発明は、情報を紙メディアに固定することにより宗教革命を起こすほどのインパクトを与えた。その後の情報の迅速な伝達の必要性は電気通信技術の発達を促し、

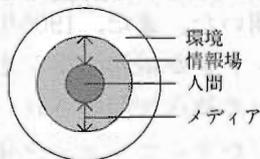
20世紀初頭から始まったメディアテクノロジーの進展が、時間と空間の概念を大きく変えた。例を挙げるならば1895年のマルコーニの無線通信技術の発明は電磁波を使った通信の第一歩を踏み出し、1896年の英国のJ. J. トムソンによる電子の発見、続くフレミングによる二極管(1904年)やド・フォレストによる三極管(1906年)の実用化がエレクトロニクス時代の端緒を開いた。また、1906年に米国のR. フェッセンデンが最初のラジオ放送に成功して商業ラジオ放送が開始され、1925年にはJ. ベアードがテレビジョンを発明して公開実験を行ったが、これらは放送時代の幕開けを告げるものであった。このような電気通信革命が20世紀前半に集中して起きたことは注目に値する。これによるメディアの急進展は不特定多数の大衆に情報を送ることを可能とするマスメディアの基盤となり、政治、経済、社会、文化に大きな影響を与えてきた。これを第1のメディアと呼ぼう。

第2のメディア

1940年代に至り米国アイオワ州立大学の

J. V. アタナソフが世界最初の電子式コンピュータを開発した。その後のトランジスタ、IC、LSI、超LSIと続くマイクロエレクトロニクスの進歩はコンピュータの驚異的な性能向上をもたらし、ネットワーク技術の進歩と結びついて20世紀後半の情報通信革命を生成することになる。これは第2のメディアの現出とも言うべき大きな質的变化をもたらした。即ち、マスメディアからn:nのマルチキャストを可能とするコミュニティメディアへの変化、更に言うならば受動型メディアから能動型メディアへの変貌であり、コミュニケーションの主体が送信側から受信側へ移行するという変化である。

ところで、メディアとは「媒体」と訳されるが、語源はラテン語で異質なものを媒介するという意味である。これを情報を伝達する媒体として本質的にとらえるならば、メディアは人間とそれを取り巻く環境との間にあって有機的な相互関係を間断なく創り出すツール(道具)として存在する(下図参照)。昨今騒がれているマルチメディアは、情報をデジタル化により統合するツールと位置づけられる。このツールは我々の周囲に情報の「場」を形成する。我々人間は情報場を経由して環境との間で情報交換しながら生命体を営んでいるのである。図書館のような知の集積と流通を行う機構は情報場の中においてメディアの働きを活性化させる装置となる。



1990年代のインターネットの爆発的な拡大は、自己組織力を持つネットワークがメディア自体の絶え間ない自己増殖を促し、神経系や脳のニューロンネットワークにも似た自律的体系を形成する可能性を生じせしめている。今世紀末に出現したこの自律型システムは環境を情報場に取り込んだ第3のメディアの出現を予感させる。

第3のメディア

環境そのものが情報場に取り込まれる一

方、最近のインターネット上のアバター(化身)やエージェント(代理人)のようなソフトウェアの登場は、人間自身をも仮想化して情報場に同化させる方向性を示している。ここにおいてメディアは中間媒体であることをやめ生命体をも包含した自律組織として我々自身を包み込み、五感を体感できるようなパーソナルメディアへと進化するであろう。第3のメディアはこのような環境、情報場、人間を統合した統一場を形成し、五感をダイレクトインターフェースとする感性直結型のパーソナルメディアとなろう。その結果、例えばテレパシー通信のようなメディアの存在すら意識されない時空を超えた仮想対面会話も可能となるかも知れない。

更に究極的なメディアは、五感が受け入れた刺激に対して統合された知覚作用を起こすものになるもの—仏教でいう六根のうち意根に相当するもの—に作用して、五感を超えたところにある創造的なある種の「意識」をも生成するであろう。これは感性情報革命とも言えるかも知れない。

一方、このようなメディアは人間の内側に感覚の場を作り出すことから、場合によっては人間の精神構造を内側から蝕むことにならないであろうか。その対応措置としてある種の免疫システムを包含することも考えておく必要があるだろう。図書館の業務の1つにメディアを介したメンタルセラピカウンスル(Mental Therapy Counsel)のようなものが加わるかも知れない。

メディアの行方は正直なところ全く予測がつかないが、新しいメディアは人間にとって感動と潤いを与える空間を形成するものとするべきであり、また、そうあってほしいと願わずにはいられない。

[参考文献]

- 1) 水島宣彦「エレクトロニクスの開拓者たち」電子通信学会、1978
- 2) 最相 力「アタナソフが遺したコンピュータの業績」bit, vol.28, No.3, 1996, March
- 3) アサヒグラフ—シリーズ20世紀—「メディア」1996, June
- 4) 田中昭二「第2情報化社会の考察」日経エレクトロニクス, No.666, 1996.7.15
- 5) 原島 博「メディアと人間」電子情報通信学会技術研究報告(HC93-79) 1994.3
- 6) William F. Birdsall著 根本 彰ほか訳「電子図書館の神話」勁草書房 1996.4

(さいがのぶあき 附属図書館事務部長)

私のすすめる一冊 ⑦

佐藤 公代

「ランニングと脳—走る大脳生理学者—」
久保田競 著 朝倉書店 1982. 3

「夜のジョギング」という題で随筆を書いていた矢先、図書館の方から「{私のすすめる一冊}について、何か書いて下さい。」という依頼を受けました。学生時代に感銘を受けた本はいろいろあるのですが、何十年も前の本であまりにも古く、現代の学生には合わないと思いますので、それは取りやめることにしました。そこで、専門外でつい最近読んだ本を見渡してみましたら、「脳内革命」(春山茂雄著 サンマーク出版)、「パソコン超仕事法」(野口悠紀雄著 講談社)等がありました。何か自分の体験とかかわらせてないだろうかと思っていた所、以前読んだことのある「ランニングと脳」の本がよみがえってきました。

私は知的な発達の研究を専門にしているので、脳に関する本を読むことが多々あります。私の本の読み方は、著者にひかれてその著者の本をほとんど集めて読むようにしています。久保田競教授の本の中で、「ランニングと脳」の本をすすめた理由は、「走るときに脳がどう働くか、走り続けると脳にどんな変化がおこるかを知って走って」みたらどうだろうかということからです。

本書の目次を紹介します。

序章 私が走る理由

第1章 顔

第2章 ランニングと心臓血管系

第3章 やせる

第4章 筋運動の種類とフィジカル・フィットネス

第5章 渴き

第6章 陶酔状態(ランナーズ・ユーフォリア・ランナーズ・ハイ)

第7章 ランニングと性格

第8章 ランニングの弊害

第9章 犬山マラソン

第10章 私にも一言いわせて—家内からの一言

終章

私は、1996年5月14日(火)から毎日20分程のジョギングを行っています。それまで走ることなどきらいで、夫から誘いを受けてもがんとしてきかなかった私が、なぜやりだしたのかまとめてみますと、次のようになります。

(1)やりだしたら楽しくなった。

(2)体が少しずつしまりだしてきているような気がする。

(3)洋服のサイズが少しずつ元にもどるかもしれないことを楽しみにしている。

(4)いやなことが忘れられる。

(5)セカンド・ウインド状態の時のはっきりした意識のもとで、普通以上にものを考える力がでてくることを楽しみにしている。

1996年8月21日(水)現在で100日間毎日継続できました。これからも毎日続けていこうと思います。

なぜ夜のジョギングかといいますと、夕食1時間後に走るのですが、走ったあと飲まず食わずでいられること、比較的時間がとれること、の2つの理由からです。

「継続は力なり」とよくいわれますが、確かに研究の面でもそうではありますが、コツコツと地道にやっていくことによって、さまになることがあります。そのようにジョギングも習慣づけて、生きている限り続けたいものです。

(さとう きみよ 教育学部発達心理学教授)



全国共同利用図書資料の紹介

各国立大学が文部省から特別配分を受けて購入した、大型コレクションと自然科学系特別図書について、平成7年4月から平成8年7月中旬の間に下記の大学から利用案内が届いていますので、紹介します。

記載内容は所蔵大学と資料名、記載の順序は案内資料の到着順です。

利用については、学術情報係にお問合わせください。

大型コレクション

鳥取大学

- International Population Census Publications, Asia : Years 1954-1967, Post 1967. (Microfilm ed. 476 reels)

一橋大学

- International law, ed. by W. E. Butler. (Microfiche ed.)

茨城大学

- 英国外務省文書：日本関係コレクション

神戸大学

- ベルギー・オランダ経済史コレクション

北海道大学

- ナチズム研究コレクション

豊橋技術科学大学

- Irish University Press Series of British Parliamentary Papers (1801-1900)

横浜国立大学

- 東寺百合文書 (写真複製版)
い函～乙外函

滋賀大学

- The Gerritsen Collection of Women's History, 1543-1945. (Microfilm ed.)

兵庫教育大学

- History of Education : 15th-20th Century. (Microfiche ed.)

奈良教育大学

- The Works of Geoffrey Chaucer, ed. by F.S.Ellis.

秋田大学

- 18世紀シェイクスピアコレクション

信州大学

- The United States Strategic Bombing Survey (Pacific)

琉球大学

- 在米・日系移民新聞コレクション
(マイクロフィルム)

熊本大学

- Ethnic Minorities, Immigrants and Emigrants : Global Phenomenon and Problem.

奈良女子大学

- マイクロ版近代文学館4. 新小説
(新小説総目次 執筆者索引を含む)

北海道教育大学

- 静嘉堂文庫所蔵国語学資料集成目録・静嘉堂文庫所蔵 古辞書集成目録
(マイクロフィルム版)

自然科学系特別図書

鹿屋体育大学

- CD-ROM (Biological Abstracts on CD) 1985年～1994年

佐賀医科大学

- The History of Nursing.
(Microfiche ed.)

高知大学

- CA 12th collective Index on CD-ROM
CA 12th collective abstracts on CD-ROM.

富山大学

- ランドルト-ベルンシュタイン数値集
グループ3, 4.

東京商船大学

- グメリーン無機および有機金属化学全書

室蘭工業大学

○Methods in enzymology.

上越教育大学

○赤外・ラマン分光分析データ集

東京水産大学

○軟体動物学に関する基本文献コレクション

香川大学

○Le Monde. Years 1944-1994.
(Microfilm ed.)

北見工業大学

○Comprehensive organometallic chemistry, II.

豊橋技術科学大学

○Handbook of ternary alloy phase diagrams.

埼玉大学

○AMS Alloy Phase Diagram Series.

九州芸術工科大学

○SDP[気象官署の地上気象観測データ]
1963年～1995年分

三重大学

○Gmelin Handbook of Inorganic and Organometallic Chemistry.
System No.1-4, 6-9, 13-15, 20-22, 27-28, 32, 35, 41, 48, 52, 56-58, 60.

群馬大学

○災害・災異コレクション(明治期以降)

山梨大学

○Powder diffraction file.

秋田大学

○Dictionary of Inorganic Compounds.
Main Work, 1st Supplement and 2nd Supplement.

神戸商船大学

○交通関係基本学術雑誌バックナンバー
マイクロ版集成

茨城大学

○Beilsteins Handbuch der Organischen Chemie.

愛知教育大学

○化学辞典シリーズ

信州大学

○Landolt-Börnstein : Numerical Data and Functional Relationships in Science and Technology. New Series Group 2, 4.

島根大学

○Beilsteins Handbuch der Organischen Chemie. 3.Erganzungswerk.
Bd.5-6, 8, 10-16.

鳥取大学

○Landolt-Börnstein : Numerical Data and Functional Relationships in Science and Technology. New Series Group 3.

琉球大学

○Landolt-Börnstein : Zahlenwerte und Funktionen aus Naturwissenschaften und Technik, neue Serie. Gruppe 3. Kristall- und Festkörperphysik.

新潟大学

○機能性物質事典 (10種類)

横浜国立大学

○Landolt-Börnstein : Numerical Data and Functional Relationships in Science and Technology. New Series Group 1, 7.

宮崎大学

○Landolt-Börnstein : Numerical Data and Functional Relationships in Science and Technology. New Series Group 2, 4.

宇都宮大学

○米国学位論文「情報科学関係学位論文コレクション」1992～1995年(マイクロフ
ィッシュ版)

奈良女子大学

○Beilstein Handbook of Organic Chemistry. Series 3, Vol.1-16.
Series 3/4, Vol.17-27.

福島大学

○NATO ASI Series. Series F : Computer and System Sciences. 102 vols.

学外への文献複写申込書について

学術情報係

文献検索の多様化と相互利用システムの機械化とが相まって、文献複写・相互貸借業務が急増しています。

そこで目につくのが、学内に所蔵しているにもかかわらず学外への申込書で依頼されるもの、文献複写申込書の記入の不備です。必要な文献をより早く入手するためにも今一度OPACやカード目録で学内の所蔵を確認してください。

また、「文献複写申込書・相互貸借申込書」の記入にあたっては以下のことに注意していただきますようお願いいたします。

- 申込書は1論文毎に1枚(2枚複写)記入してください。
- 記入は明瞭に、特に欧文を手書きする場合は活字体で記入してください。
- その他下記の事項にもご協力ください。

雑誌の場合

- (1)雑誌名は原則としてフルネームで記入してください。ReportやPaper類は団体名を併記してください。類似のものがあって特定するのに時間がかかります。
- (2)巻、号、発行年は必ず記入してください。巻または年いずれか一方のみの場合は参照不完でお断りする場合があります。
- (3)頁は当該論文の初めと終わりの頁を記入してください。特に論文の途中のみを必要とする場合は、その旨注記してください。
- (4)論文の著者は必ず記入し、論題が不明の場合はその内容を [] に入れて注記してください。

図書の場合

- (1)著者、編者名は特に正確にフルネームを記入してください。
- (2)書名はもちろん叢書名(シリーズ名)は()に入れて記入し、その番号も記入してくだ

さい。

- (3)出版地、出版者、出版年の他版次も記入してください。
- (4)複写の場合は頁と論文の著者、論題を必ず記入してください。また、雑誌の場合と同様に論文の途中のみを必要とする場合はその旨注記してください。

また、学外への依頼にも増して、学外からの依頼受付も急増しています。教官がたには日頃からの相互利用業務にご協力いただき感謝しています。

大半が研究室所蔵資料のため、担当者はその都度各研究室を駆けずり回っています。何かと連絡不十分な点や、ご無理をお願いすることがあるかと思いますが、今後ともよろしくご協力下さいますようお願いいたします。

図書館では利用者の依頼により文献複写を行う場合は「著作権法第31条」に則って次に掲げる場合には、その営利を目的としない事業として図書館資料を用いて著作物を複製することとしています。

一 図書館等の利用者の求めに応じ、その調査研究の用に供するために、公表された著作物の一部分(発行後相当期間を経過した定期刊行物に掲載された個々の著作物にあっては、その全部)の複製物を一人につき一部提供する場

合

二 図書館資料の保存のため必要がある場合

三 他の図書館等の求めに応じ、絶版その他これに準ずる理由により一般に入手することが困難な図書館資料の複製物を提供する場

学術情報検索システムの本運用の実施について

附属図書館では、平成8年5月より学術情報検索システムの試験運用を実施しております。

利用申請者も250名を超え、毎月3000件以上のデータベースへのアクセスがあります。

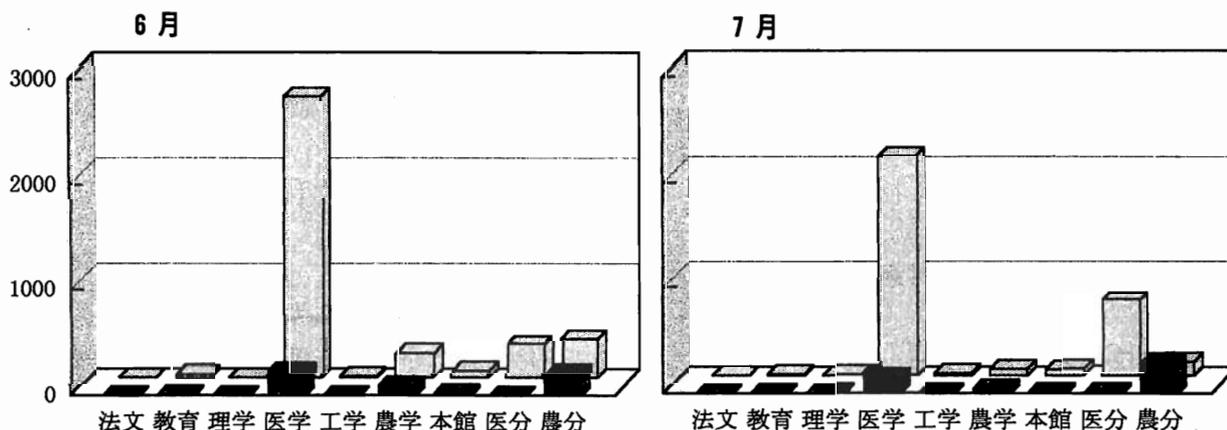
この度、10月より本運用に切り替えますが、正式のlogin名とパスワードは試験運用期間

中使用されているものを、そのままご利用ください。

学術情報検索システムについては、図書館ホームページの「学術情報検索システムのご案内」<http://www.lib.ehime-u.ac.jp/HTML/db/dbhome.html>に最新の情報をその都度公開しておりますので、ご覧ください。

部局別利用統計
login件数

■ Agricola
□ Medline



相互利用の手続きを簡素化

愛媛地区大学図書館協議会では加盟館相互の利用について、利用手続きを簡素化する方向で検討してきましたが、このほど開かれた総会で、所属大学(学校)の身分証明書(学生は学生証)を提示し、入館手続きをすれば利用(閲覧, 貸出共)できるとの申し合わせ事項を決定しました。

このことによって、従来必要とされていた所属大学図書館長の紹介状が省略されます。

入館手続き及び閲覧, 貸出しについては、

各々の館の規定に依りますので職員の指示に従ってください。

なお、この方法がとれるのは以下の愛媛地区大学図書館協議会加盟館のみです。

松山大学, 聖カタリナ女子大学・聖カタリナ女子短期大学, 松山東雲女子大学・松山東雲女子短期大学, 愛媛県立医療技術短期大学, 愛媛女子短期大学, 今治明德短期大学, 新居浜工業高等専門学校, 弓削商船高等専門学校, 愛媛大学



愛媛大学記念文庫

平成7年4月から平成8年7月の間にご寄贈いただいた著書は以下のとおりです。

(敬称略)

天野雅文

○アメリカがわかるアメリカ文化の構図

天野雅文, 林康次, 加藤好文編 松柏社

1996

小山登久

○平安時代の公家日記の国語学的研究 小山

登久著 おうふう 1996

小松光三

○日本表現文法論 小松光三著 新典社

1996

古茂田淳三

○ワシントン広場 ヘンリー・ジェイムズ著

古茂田淳三訳 あぼろん社 1996

田村憲治

○言談と説話の研究 田村憲治著 清文堂

1995

フランソワーズ・カーター

○John Milton and the image of dance,

by Françoise Carter.

The Renaissance Institute, Sophia

University, 1996.

守口三郎

○西欧芸術への旅 守口三郎著 ニューイン

ターナショナル 1995



購入雑誌リストについて



附属図書館では毎年「購入雑誌リスト」(冊子体)を作成し、各学部学科に配布していましたが、1996年版からは附属図書館ホームページに「購入雑誌リスト」を公開していますので、ご利用ください。

URLは和文編, 欧文編別で、以下のとおりです。

和文編: <http://www.lib.ehime-u.ac.jp/HTML/wazatu.html>

欧文編: <http://www.lib.ehime-u.ac.jp/HTML/yoazatu.html>

附属図書館委員会

○平成8年度第1回附属図書館委員会

日時 平成8年6月3日(月) 15:00~16:05

場所 附属図書館視聴覚室

報告事項

- (1) 平成9年度概算要求事項について
- (2) 平成7年度学生用図書を選定状況について
- (3) その他
自己点検・評価報告書について

協議事項

- (1) 学部一貫教育と図書館の在り方について

図書館日誌(会議, 研修)

6月3日 平成8年度第1回附属図書館委員会

6月19日 平成8年度第2回医学部分館図書・情報委員会

7月1日 平成8年度第3回医学部分館図書・情報委員会

7月3日 第43回国立大学図書館協議会総会
~4日 (横浜国立大学)

7月9日 平成8年度愛媛地区大学図書館協議会総会(松山大学)

7月30日 平成8年度農学部分館図書館委員会

8月1日 平成8年度第4回医学部分館図書・情報委員会

8月9日 中国・四国国立大学共同利用研究等検討委員会「第15回学術情報専門委員会」(広島大学)